



滝山寺仁王門の屋根が
朝もやにけふる

「こはんがたけたよ」

「うまそうだなあ」

常小の岩山に

キャンプの歓声がひびく

常磐の冷気が

子どもたちの膚にしみる

昭和54年9月1日
編集／発行
岡崎市教育委員会



(校庭で宿泊訓練—常磐小)

— 教育随想 —

教師への、すこし

堅苦しい話

竹本三郎

学校環境の整備・学校施設の改善は、私の分担する大きな仕事であった。学校の適正規模化のための分離新設、施設改善のための学校全面移転・老朽校舎改築・体育館・プールの新設などに取組んできた。ことごとしく回顧するまでもなく戦争、敗戦を経過して、小学校は戦前から辛抱してきた校舎であるし、中学校は敗戦後の貧困のなかに、ともかくにも苦面した校舎であって、ともに改築を要する時を迎えていたし、教育機器など現代的な学習方法への対処も必要であるし

幸いに、めざましい経済復興にめぐり合えて、その機を得ることができたのである。こうして、外面的に学校がとてい美しくなるにつれて、私は「ちよっと待てよ。これで学校はいいのだろうか」と思うようになった。

敗戦後の貧しさのなかでの学校建設は不十分なせ集め資材での建築であったり、寄宿舎などの転用であったりした。

ひいき目に見ても貧相であった。しかし貧困と混乱の世相にあって、「真理と平和を希望する人間の育成」「普遍的にしてしかも個性的なゆたかな文化の創造」と教育基本法にかかげたように、理想的人間像を描いて、それを実現しようという強烈なゆめを抱いていた。ゆめを実現するための研究も実践も真剣さに溢れていたと思う。その強烈なゆめが、いまは貧しいのではないかという感じが、私に「ちよっと待てよ。」と思わせたのではないだろうか。

新しい教育課程の基本的な考え方の第一に、人間性豊かな児童生徒の育成がかかげられているのに、ゆとりと充実と基本的、基礎的とかが、第一の問題にされている。少なくとも「ゆとりと充実」と同等に「人間性」を問題にしてほしいと私は思う。父兄の強い教育要求や世の学校教育批判をそらして、第一義の一点を船晦しているとしたら、淋しい。経済の



繁栄・物の豊かさが、理想の喪失、心の乏しさをかもし出しているとしても、教育現場は、同じ轍の中にあつてはいけな

い。
添田知道の「教育者」が復刊されたのは、昭和五十三年である。「教育者」は実在の人物をモデルにして、明治の学校創設を描いたもので、戦中から戦後にかけて書き続けられ、若い教育者の胸の火を燃え上がらせたものである。

明治の学校づくりも、敗戦後の学校づくりも、経済的貧困の中にあつた。現代の学校づくりは、それに反して経済的富裕の中にある。明治にも敗戦後にも貫いていた学校づくりの心——人間形成の理想を高くかかげたいというのが「教育者」再刊の願いであるし、私も同感する。いつの世も、ゆめは茫洋として大きくありたいものである。

(豊川市教育長)



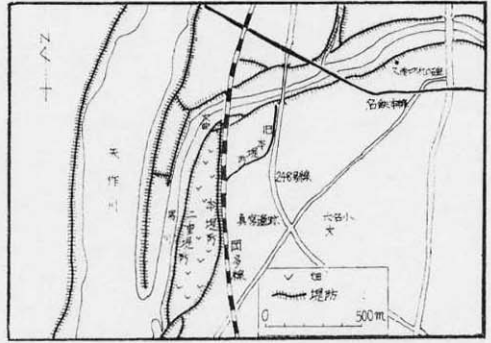
オマハの印象

藤井智雄

渡米以来好天に恵まれていた私達は九月十七日、小雨に煙るネブラスカ州オマハのエベリー空港に着いた。直ちにクレイトン大学、ハンスコム公園、オマハ州立大学、フォード前大統領旧宅等を見学して午後、ボーイスタウンを視察した。

フラナガン神父の遺体を安置した柩を前にして、三十年前に観た映画、少年の町の感激を新たにした。現在約六百人の孤児が人種差別も無く、十名宛を一家族とし、父母の神父さんのもとに農業、牧畜から理容、陶芸と様々な仕事につき独立採算制により、幸せで楽しい生活を送っている姿を目のあたりに見て、まことに心暖まる思いがした。

ここ中央アメリカでは、訪れる日本の視察団も数少ないということもあり、非常な歓迎を受けた。空港には市長のドナルド氏、市会議員を勤める二世の武市南海夫氏、一世のキング、波江夫妻その他一世の方々の出迎えを受けたことは感激であった。稍ホームシックになつていた



—ふるさとの山河—

六名二重堤防

矢作川と男川の合流する六名町は早くから人々の定住生活が始まった地である。真宮遺跡に代表されるがごとく、台地の末端部に安全な土地と水を求めて人々が住み、農耕が行われた。昔の人々は、水害の危険のないところで、しかも水の湧き出るような所に家を構えた。明治二十三年測図の地図によれば、住居は台地上、段丘上、また自然堤防上などであり、沖積低地にはほとんど家がなかった。

台地より一段低い沖積低地は田畑に利用されていたが、常に水害の危険性はあった。六名の二重堤防も、集落を守るためには二重になっていたが、河川敷の田畑のためには低い堤防しかなく水害の常襲地であった。田畑への冠水は毎度のことであり、年貢もほとんどとられないほどであった。それでも農家の人々の土地

に対する愛着は強く、米、麦、菜種、それに桑などを作った。

六名の集落を取り囲むようにできている本堤防と男川に沿ってできている二重堤防があるが、本堤防が切れたことはここ近年ない。八十九才の古老に聞いても、「むかし大曲付近で切れたそうだ。」と伝えている程度である。

逆に二重堤防の方は常に切れる運命にあった。男川の水があふれては切れ、矢作川の水が流れこんでは切れていた。

最近まで、ほぼ四〜五年に一度の割で切れていた。言いかえれば、河川敷の田畑は大水の際の遊水池のような役割も果たしていた。

河川改修が進むにつれ、堤防もがん強くなった。矢作川と男川の境が区切られ、矢作川からの流入はなくなった。堤防が

かさ上げされ、水があふれる場合も下流の方から徐々に浸水し、被害が最小限に食い止められるようになった。

昭和三十六年の十三号台風以後、改修により大きな被害はなくなった。ところが本堤防の一部を取り壊し、岡多線を敷く話もちあがった。古来から水害に苦しめられ、命がけて闘ってきた土地の古老は、中央官庁の役人に直談判をした。

本堤防を壊しては、住民の生活がおびやかされるといふ古老の生活経験は、役人の心を動かし、本堤防を築いてから岡多線を敷くことになった。

今、低湿地が住宅地になり、田畑も耕地整理が行なわれようとしている。でも水害のあったこと、これからも起こりうることを忘れてはならない。

(六名小 福応謙一)



私達を、その夜自宅に招待して下さったキング氏ご夫妻の親切を忘れられない。

私達の当市訪問をオマハワールドヘラルド紙は大きく報じていた。(梅園小)

ローマの受難

落合敬子

空はあくまで青く、古代の趣きを湛えた町ローマ。それにふさわしく、私たちのホテルもぐっとクラシックだった。

大理石作りの内装でドアノブも凝っている。そこでつい、いつもの好奇心が頭をもたげる。(まさか自動ロックじゃ……)

「ボタン。」時既に遅し。中に入っている鍵がうらめしい。

スリッパのままエレベーターに飛び乗った。ドアが閉じる寸前「待って。」という日本人の声。「待って。」と言われても、「開」のボタンがわからない。「ままよ。」目についた赤いボタンを押す。ドアが開かないばかりか、上にも下にも動かなくなってしまった。友人の顔からも笑いが消えてきた。心なしか息苦しい。電話ボタンを押しても応答なし。「ヘルプ。」の声も届かない。十数分たつたろうか。ついに強硬手段に出た。友人と二人で力まかせにドアをこじった。するとどうだろう。後でこの話をし、受難とは、私も神に近づいたのかと一人で悦に入っていると、

M氏曰く、

「神(紙)一重……。」

(大門小)



●石垣空港で迎えを受ける

親善都市訪問①

石垣市と結ぶ友好の絆

●塚本時丸養中学校長を団長とし、奥殿小児童二名、中学生十四名、引率者十名を含む二十六名の石垣市親善訪問団員は八月十六日朝七時市役所前に集合。鈴木教育長から、「岡崎市民の代表として親善を深め、将来役立つことを学んでほしい」と激励をうけ、市のバスで大阪空港へ向けて出発。午後四時には無事多数の出迎えをうけ石垣空港に到着。

●石垣市役所では、「国際児童年記念事業の一つとして児童生徒の相互訪問が実現できてうれしい。今後とも両市が相たずさえて市民ぐるみの交流を通じ、いっそう親善が深まることを念願する」との岡崎市長のメッセージが読みあげられた。

●今回の訪問で次の三つを学んだ。

①石垣の人々の人情の豊かさ

空港での出迎え、見送り、大浜小学校での熱烈な歓迎ぶり、関係者の親切な案内、どれもこれも胸のあつくなる思いだった。

②自然の美しさ

機内から見た海の青さ、底地海水浴場の美しさは忘れられない。

③戦争のいたまじさ

沖縄南部の戦跡をまわり、平和のありがたさがいたい程身にしみて感じられた。

●これらの思いを深く胸にきざみ、十九日午後十一時、一行は無事帰国した。関係者の皆さんニヘーデービル（多謝）。



●出発前、市役所前で教育長の激励を受ける



●大浜小学校で熱烈な歓迎を受ける



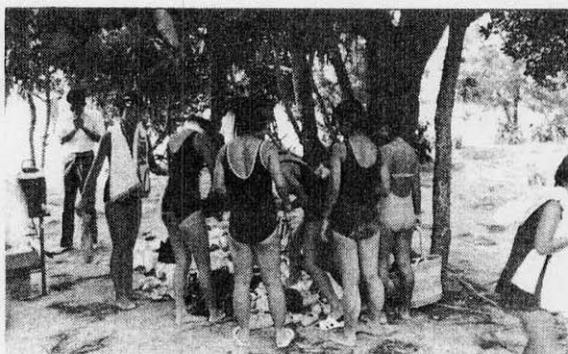
●那覇空港から南西航空機で



●岡崎市長からのメッセージを読む



●トロフィーにうまる具志堅用高選手の自宅で



●底地海水浴場でしばし楽しむ



●訪問団員が五万石おどりを披露する



●戦争の悲惨さに胸を打たれる「ひめゆりの塔」



●那覇市の名所「守礼の門」で

教育日々



三年生と暗算

矢作東小 柴田安則

三年生の担任、児童九才。始業式の最中に早くもおももらし。私の自信はもろくも崩れ去りました。給食が始まると今度はたび重なるもどし事件です。こちらには連鎖反応を伴いとてもたいへんでした。

でも、あくる日、昨日の事件を全く忘れ小さな体に大きなかばんを背負って教室へ入って来る子供たち。本当にかわいい子供たちです。私はこんな子供たちの姿を見ているうちに、心のどこかが燃えはじめたのに気づきました。楽しい学校生活を、力いっぱい学習をさせてやろうと思ひ、「楽しい暗算学習」から出発することになりました。

ところがいざ始めてみると、



子供たちにとって暗算はかなり苦痛のようでした。

「えー、また暗算なの。やだなあー。」

「暗算は先生があわてさせるもんだ、やだー。」

毎日強烈な反発です。これは何とかしなければいけないと思ひ考へ出したのがタイイルによる計算板です。この計算板は、そろばんが頭に入っていると暗算が早く正確にできるように、カラータイイルを具象として児童の頭の中に構成しようというものです。しかもそろばんと同様に頭

加法で計算できる上に整数の概念構成に役立つ点でも十分に意味があったようです。さらに、先生とともに教具を作製したと

いう親近感を児童がもつたこと、タイイルによって計算することに楽しさを与えたことなど効果がありました。

この方法に慣れてくると児童は授業中、放課の区別なく、また暗算、筆算を問わず、わからなくなったり、確かめたいと思ふときには、すぐにタイイルをいじり始めるようになりました。「十の位は黄が二つでしょ。で、一の位は白が五つでしょ。だから……。」このごろでは計算板の前に数人が集まり、話し合ったり、教え合ったりして学習する光景さえ見られるようになりました。今までの教員生活になかったおもしろさを感じ始めているこの頃です。

山の学習で

南中学校 鈴木尚子

「あつ何の光だろう。」

「不思議な色だね。」

生徒達は口々にその光るナゾの物体についてワイワイガヤガヤと討論し合っている。ここは少年自然の家キャンプ場。川岸から迷い込んできたのか雑木林からピカッ、ピカッと光が一筋、二筋流れている。今の子どもは

ホタルを見たことがないらしい。「それはホタルだよ。」と、教える。

「えっ？ホタルってこんなにきれいな光を出すの？」何も知らないのである。初めての経験にやや興奮気味。ここで自然との触れ合いを見る。

翌朝、四時頃からトントんと音がして目覚め、音のする方へ足を運ぶ。

「こんな早くから起きちゃあかん。」

と怒鳴りつけ、あたりを見回すと、我がクラスの連中はすでに毛布をたたみ、全員が炊飲の準備をしている。

「先生、朝早いと気持ちいいねそれに、薪割っておけばすぐに作れるもの……。」

この言葉を耳にして大きなため息をついた。

「他のクラスの寝ている子に迷惑をかけないようになさい。」と言ひ残して去ることにした。

案の定、彼らはかたづけも早く終り、自由時間を生み出すことに成功。これが彼らの作戦だ。

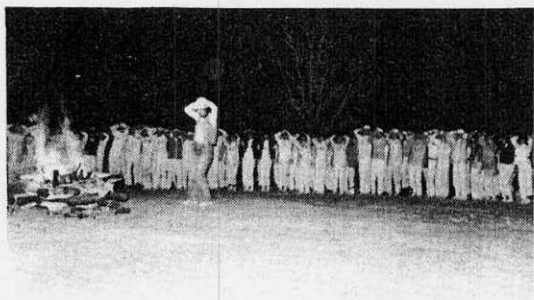
クラス一番の堅物K君が、「先生、沢へ遊びに行ってもいい？カニがいそだよ。」

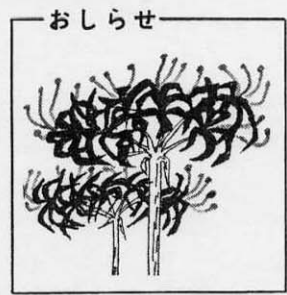
「近くならいいよ。」

五、六名の班員を引き連れて行

った。あとから沢へ行ってみると、ワーワーとカニを捕えてビニール袋へ入れていた。十数匹も。これが中学二年生かしら、と疑いたくなる。学校生活では見られない一面である。

二泊三日の山の学習は子どもにとっても教師にとっても多くのドラマが展開されて興味深い。子どもが一番期待するのは夜のテント内のこと。普段、接触の少なかつた仲間とトコトコ話し合い、理解し合う。夜の静寂の中に彼らの話し声が低く響く。夜の見回りでサイトを歩きながら、星空が美しすぎたのか胸の熱くなるのを感じた。





おしらせ

【寄贈刊行物・資料等】
◆今週の読書

二〇〇号記念特集号
今週の読書の会編

指導員を中心として毎週発行されている読書記録二〇〇号を記念して特集されたもの、「私の推せん書」と「読書雑感」とか

実のある研修・活発な意見

夏休みの行事から

新任教員自主研修会
昭和五十四年度新任教員自主研修会は八月三、四日の二日間、秦梨小学校と岡崎市少年自然の家を会場に行われた。

第二日目の講演「話し方と朗読」では、東海ラジオの安藤いづ子アナウンサーが、ユーモアと現代的センスに満ちた話しぶりで会場を魅了し、参加者にも好評であった。

生徒模擬市議会

本年度の研修会では参加者の要望と自主的な運営を大幅に取り入れ、参加者の積極的な態度と相まって充実した研修会となった。

国際児童年を記念する行事の一つとして「第七回生徒模擬市議会」が、去る八月十日岡崎市議会場で市内中学校から男女各一名ずつが代表質問に立ち、真剣な質問提案がなされた。

第二十一回岡崎市中学校英語スピーチフェスティバル

身近な問題を、具体的に実際にデーターを集め、資料化して、八ミリや写真など視覚に訴えるものが多く、市長さんも真剣に答弁されて、議場は張りのある雰囲気につつまれた。

▽市内各中学校、各学年代表による英語スピーチコンテスト

特に、本年は岩津中から海外への児童生徒の派遣の提案に對

らなる A5判・86頁
◆岡崎市の淡水魚相―池編―

岡崎市教育委員会編

昨年刊行された「河川編」に続き、市内各地区に散在する保水用、農耕地用の池や溜池に生息する淡水魚相の実態についての報告書 A5判 56頁

して、「来年は必ず実現させるようにしたい。そのために自分できることが第一の条件である。」という言葉を大にして答えられ、議場は明るい希望をもつことができた。

その他、南部地区への高校新設を希望する切実な声、野鳥を守って自然保護に対する市民への意識昂揚を期待するもの、街路灯の設置など、中学生の体験によるなまの声などに、市長さんからも誠意あるお話を聞き、代表は感激して帰路についた。

の実際について研修を深めた。

●第32回 岡崎市中学校市長杯総合体育大会兼西三河中学校選手権大会岡崎・額田支所予選会
54.7.21～8.2 岡崎公園グランド他

種目	性別	優勝	2位	3位
軟式野球	男	矢作	幸田	六ッ美福岡
	女	幸田	葵	城北
ソフトボール	男	矢作	福岡	南河合
	女	矢作	福岡	甲山南
軟式庭球	男	幸田	東海	南葵
	女	南	幸田	矢作東海
卓球	男	幸田	葵	矢作
	女	南	幸田	福岡
バレーボール	男	幸田	葵	福岡
	女	南	幸田	福岡
バスケットボール	男	城北	葵	竜海美川
	女	美川	幸田	附属竜海
ハンドボール	男	六ッ美	美川	城北葵
	女	六ッ美	美川	葵岩津
剣道	男	幸田	六ッ美	城北附属
	女	附属	甲山	六ッ美葵
体操	男	葵	甲山	竜海
	女	南	葵	矢作
水泳競技	男	矢作	甲山	城北
	女	甲山	矢作	岩津
陸上競技	男	矢作	美川	甲山
	女	岩津	矢作	六ッ美
柔道	男	美川	竜海	

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
男子総合	矢作	葵	城北	南	竜海	美川
女子総合	矢作	南	甲山	葵	岩津	城北
男女総合	矢作	葵	南	城北	甲山	岩津

- 第6回 岡崎市小学校球技大会
- 第18回 岡崎市小学校ソフトボール大会
- 第17回 岡崎市小学校水泳競技大会
54.7.21～8.27

〈成績〉 岡崎市体育館他

種目	性別	優勝	2位	3位
バレーボール	男	井田	梅岡	矢作北三島
	女	六ッ美中	岡崎	井田矢作東
バスケットボール	男	愛宕	緑丘	広輪連尺
	女	愛宕	藤川	男川城南
サッカー	男	福岡	常磐	岡崎竜美丘
	女	矢作南	大樹	附属井田
ソフトボール	男	広輪	山中	岩津根石
	女	井田	矢作南	根石
水泳競技	男	井田	矢作南	根石
	女	矢作南	井田	根石

龍谷村電気購買組合碑



所在地—岡崎市桑谷町

龍谷小学校の東、数百米のと
ころに岡崎市東部農業協同組合
竜谷支所がある。その玄関先に
写真のような変わった字で「龍谷
村電気購買組合」というあまり
聞きなれない文字を刻んだ碑が
目に入る。当時は、電気購買組
合が組織され自分達の力で電気
がひかれたとのことである。こ
の組合は二四四人で大正九年十
月十九日に設立。電柱の穴は村
の青年が掘り、槽を組んで一本
ずつ立てた。これに電気配線をし
たり、設備の維持管理をする
ために村の若者の中から有能な
青年が選ばれた。小林森市さん

●カッ

畔柳貞治さん、本田賢司さんの
三人である。三人は村人の期待
を一身に受け、宮地町にあった
「矢作水力宮地変電所」で三カ
月から一カ年の実習を終えた後
名古屋で資格試験を受けてから
この仕事にたずさわった。
はじめての電気はわずか五燭
であったが、ランプやカンテラ
の明るさに慣れていった村人の目
にはまぶしく映り「仕事をしな
くてはオトマシイと言って夜遅
くまで縄をなつた。」なにしろ
天井のクモの巣がえろうも多い
に驚ろいたノウ。」という老人の
声には実感がこもっていた。

山中小 滋野井 貴子

この本を

- 子どもたちの復讐(上・下) 本多 勝一
朝日新聞社 ¥ 980
- 感想 小林 秀雄
新潮社 ¥ 1,800
- リーダーの条件 会田 雄次
新潮社 ¥ 750
- 維新の人間像 奈良本辰也
NHK ¥ 650
- 金閣炎上 水上 勉
新潮社 ¥ 1,200
- 子どもの自然子どもの科学 小林 実
文化出版社 ¥ 600
- 日本の文章 外山滋此古
北斗出版 ¥ 1,300
- 賢い娘は大学へ行かない 川上源太郎
祥伝社 ¥ 630
- 子どもを見直す 斉藤 次郎
中央新書 ¥ 380
- フィナーレの発想 外山滋此古
講談社 ¥ 850
- 子どもの発表を育てる 丸本 喜一
初教出版 ¥ 1,100

お彼岸のお中日がやってきた。昼と夜
の長さが同じこの日は、学年の折り返し
点でもある。
春の始業式の日に出合った生徒たちと
の生活も、もう後半に入るのだ。
実りの秋を目前にして、私たちの営
みも実り多きものになりたい。次のお
彼岸の日に後悔しないために。

シオア

「新学期です。計画的に余裕をも
つてがんばろう。」と言ってきたのは、
ほんの数時間前。「オイ、オアシスの
原稿はできたかッ。」と編集長「あのう、
今すぐ……。」と言って原稿用紙に向う。
とは、これを入れるだけ。それにしても
よい文が書けんのは余裕がないという証
拠か。——編集会議も間もなく午前0時

「あーした天気になあれ。」まっかに燃え
る夕焼空を見ながら下駄をほおり上げて家
路についた思い出をもつ人はまだ多い。東
の空から西の空へ刻々と変化する自然のハ
ーモニをうっとり眺めながらいつのま
にか夜のとばりがおりていくあの雄大で
巧妙な一日の幕切れは、アニメの魅力
の前に色あせてしまったのだろうか……

すばらしく晴れたった秋の夜空。
頭上にぽっかりと浮んだまんまるな
月。パイオニア11号が、はるかなたか
ら土星のカラー写真を送ってきたのは数
日前のことだった。地球を出発して六年
半も飛び続けての芸当に、科学の進歩ぶ
りを驚くばかり。だが、頭上の月も、輪
をもつ土星もやはり神秘そのものだ。